

## 薬学研究所 研究活動状況（平成27年度）

### 著 書

担当区分	タイトル	出版社	出版日	著者
単著	「患者(命)を救う」薬剤師を目指すそれぞれの想い（都薬雑誌 Vol. 38 No. 8）	公益社団法人東京都薬剤師会	2016	葉山達也
単著	「患者(命)を救う」薬剤師を目指すそれぞれの想い（都薬雑誌 Vol. 38 No. 3）	公益社団法人東京都薬剤師会	2016	葉山達也
単著	がん患者でみられる副作用 浮腫（調剤と情報）	株式会社じほう	2015. 10	葉山達也
分担執筆	薬事法規・制度・倫理マニュアル（第12版）	南山堂	2015. 4. 5	編集：中村健 他、執筆者：恩田光子 他（編集3名、執筆者9名、執筆者3番目）

論 文

単著・共著区分	論文名	掲載雑誌	巻	号	ページ	出版日	著者
共著（第一著者以外）	Characterization of Motor Neuron Prostaglandin E2 EP3 Receptor Isoform in a Mouse Model of Amyotrophic Lateral Sclerosis.	Biological and Pharmaceutical Bulletin	38	12	1964-1968	2015.12.1	Yasuhiro Kosuge. Hiroko Miyagishi. Takashi Shinomiya. Kenta Nishiyama. Satomi Suzuki. Nobuhiro Osada. Kumiko Ishige. Migiwa Okubo. Mitsuru Kawaguchi. Yoshihisa Ito.
共著（第一著者）	尿蛋白 2 + 発現時における bevacizumab 投与継続が与える影響の検討	日本病院薬剤師会雑誌	52	2	197-201	2016	岩渕聡, 葉山達也, 内池明博, 堤大輔, 早坂正敏, 吉田善一
共著（第一著者以外）	Studies on uniformity of the active ingredients in acetaminophen suppositories re-solidified after melting under high temperature conditions	Chem. Pharm. Bull.	63	4	263-272	2015.4.1	Yoshihisa Yamamoto, Toshiro Fukami, Tatsuo Koide, Yoshinori Onuki, Toyofumi Suzuki, Noriko Katori, Kazuo Tomono
共著（第一著者以外）	Determination and prediction of solubilities of active pharmaceutical ingredients in selected organic solvents	Fluid Phase Equilibria	406		116-123	2015.11.25	Hiroyuki Matsuda, Kanako Mori, Mariko Tomioka, Nozomi Kariyasu, Toshiro Fukami, Kiyofumi Kurihara, Katsumi Tochigi, Kazuo Tomono

単著・共著区分	論文名	掲載雑誌	巻	号	ページ	出版日	著者
共著（第一著者かつコレスポンディングオーサー）	Pharmaceutical evaluation of atorvastatin calcium tablets available on the Internet: A preliminary investigation of substandard medicines in Japan	Journal of Drug Delivery Science and Technology	31		35-40	2016. 2. 1	Toshiro Fukami, Tatsuo Koide, Hiroshi Hisada, Motoki Inoue, Yoshihisa Yamamoto, Toyofumi Suzuki, Kazuo Tomono
共著（第一著者以外）	Gender Segregation on Campuses: Cross-Time Comparison of the Academic Pipeline in Japan, Korea, and Taiwan	International Journal of Gender, Science and Technology				in press	Yenwen Peng, Ginko Kawano, Eunkyong Lee, Li-Ling Tsai, Kae Takarabe, Hisako Ohtsubo, Miwa Yokoyama, Mariko OGAWA
共著（第一著者以外）	日本における科学技術分野の女性研究者支援政策：2006年以降の動向を中心に	ジェンダー研究：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報		19	175-191	2016. 3. 29	横山美和, 大坪久子, 小川眞里子, 河野銀子, 財部香枝
共著（第一著者）	女性研究者の“見える化”, 日本化学会では進んでいますか?	日本化学会巻頭言	68	12	1077	2015. 12. 30	大坪久子
共著（第一著者）	A novel metabolic activation associated with glutathione in dimethylmonothioarsinic acid (DMMTA <sup>v</sup> )-induced toxicity obtained from in vitro reaction of DMMTA <sup>v</sup> with glutathione	Journal of Trace Elements in Medicine and Biology	33		87-94	2016. 1	Hidetoshi Kurosawa, Yasuyo Shimoda, Motofumi Miura, Koichi Kato, Kenzo Yamanaka, Akihisa Hata, Yuko Yamano, Yoko Endo, Ginji Endo

単著・共著区分	論文名	掲載雑誌	巻	号	ページ	出版日	著者
単著	微生物に対する Cu <sup>2+</sup> 溶液薬剤感受性およびペプチドグリカン細胞壁の溶菌・殺菌作用	化学工業	66	8	611-616	2015. 8. 31	石田恒雄
単著	グラム陽性菌に対する銅イオンの抗菌作用過程に関する文献的考察	日本銅学会誌	54	1	251-256	2015. 8. 15	石田恒雄
共著（第一著者）	米国の CDTM における訴訟リスクーナーズプラクティショナーの事例を踏まえてー	医療薬学	41	6	435-441	2015. 6. 10	河原敦, 中井清人, 倉田なおみ, 亀井美和子

学会発表

発表課題名	学会名（開催地）	発表日	発表者
Ovalbumin 及び polyinosinic-polycytidylic acid 曝露マウスにおけるステロイド治療抵抗性気道炎症に対する PI3K 阻害薬の効果	日本薬学会第 136 年会（横浜）	2016. 3. 29	鍋田侑李, 橋本莉佐, 小杉麻衣, 渋谷映人, 木村元気, 上田敬太郎, 中沖貴宏, 西本裕樹, 益子 崇, 草間 貞, 木澤 靖夫
タバコ主流煙及び poly(I:C) 誘発ステロイド非感受性気道炎症モデルマウスにおける抗 TNF- $\alpha$ 抗体及びデキサメサゾン併用投与の作用	第 89 回日本薬理学会年会（横浜）	2016. 3. 11	西本裕樹, 木村元気, 上田敬太郎, 中沖貴宏, 益子 崇, 草間 貞, 木澤靖夫
タバコ主流煙及び dsRNA 誘発気道炎症における PI3K 阻害薬のステロイド治療抵抗性改善効果	第 59 回日本薬学会関東支部大会（船橋）	2015. 9. 12	木村元気, 羽田竜馬, 加藤 萌, 飯田有貴, 上田敬太郎, 中沖貴宏, 西本裕樹, 益子 崇, 草間 貞, 木澤靖夫
ステロイド治療抵抗性と histone deacetylase 2、および sirtuin 1 の関連	第 59 回日本薬学会関東支部大会（船橋）	2015. 9. 12	西本裕樹, 木村元気, 上田敬太郎, 中沖貴宏, 草間 貞, 木澤靖夫
タバコ主流煙及び dsRNA 誘発気道炎症のステロイド治療感受性は PI3K 阻害薬により回復する	第 132 回日本薬理学会関東部会（浦安）	2015. 7. 4	木村元気, 羽田竜馬, 加藤 萌, 飯田有貴, 上田敬太郎, 西本裕樹, 益子 崇, 草間 貞, 木澤靖夫
神経芽腫に対する各ビタミン K 誘導体における分化 誘導効果の検索	日本薬学会第 136 年会（横浜）	2016. 3. 26	中山敏光, 新井麻矢, 浅見 覚, 鳥山正晴, 三浦基文, 栗田雅弘, 川久保 孝, 吉田善一, 本橋重康, 鈴木 孝
EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌における gefitinib の治療効果に対する制酸剤併用の影響	日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2016（鹿児島）	2016. 3. 12	飯塚俊介, 葉山達也, 内池明博, 堤大輔, 小田桐功武, 中山敏光, 早坂正敏, 吉田善一

発表課題名	学会名（開催地）	発表日	発表者
A clinical prediction model for infusion reaction to rituximab	第13回日本臨床腫瘍学会学術大会 2015年（札幌）	2015.7.16	Akihiro Uchiike, Tatsuya Hayama, Katsuhiko Miura, Daisuke Tsutsumi, Masatoshi Hayasaka, Yoshihiro Hatta, Masami Takei, Yoshikazu Yoshida
大学病院勤務薬剤師のストレス要因やストレス反応と職務満足度の関連性	第56回心身医学会総会（船堀）	2015.6.26	蛭川康子, 中山敏光, 今井徹, 三浦勝浩, 村上正人
近赤外分光法を用いたヘパリン類似物質含有保湿剤とステロイド軟膏からなる混合物の安定性	日本薬学会第136年会（横浜）	2016.3.27	山本佳久, 久米谷萌水, 大貫義則, 深水啓朗, 小出達夫, 鈴木豊史
日本薬局方収載の回転バスケット法を用いた坐剤の溶出試験法の開発	第59回日本薬学会関東支部大会（船橋）	2015.9.12	瀬田昌子, 宮島沙弥, 山本佳久, 鈴木直人, 鈴木豊史, 伴野和夫, 井上元基, 深水啓朗
Novel pharmaceutical cocrystal consisting of paracetamol and trimethylglycine, a new promising cocrystal former	International Powder and Nanotechnology Forum 2015 (Frankfurt, Germany)	2015.6.17	Toshiro Fukami, Toyofumi Suzuki, Kazuo Tomono
ケトプロフェン含有テープ製剤の顕微ラマンイメージング	日本薬剤学会第30年会（長崎）	2015.5.21	東 初樹, 瀧波磨理江, 大橋由紀, 久田浩史, 井上元基, 小出達夫, 鈴木豊史, 伴野和夫, 深水啓朗
錠剤中コクリスタルの低波数ラマン分光イメージング	日本薬剤学会第30年会（長崎）	2015.5.21	深水啓朗, 久田浩史, 小出達夫, 鈴木豊史, 伴野和夫
自然科学における若手研究者養成とジェンダー	日本学術会議シンポジウム若手研究者養成とジェンダー（六本木）	2016.3.5	大坪久子, 小川温子, 佐藤 恵, 平田典子

発表課題名	学会名（開催地）	発表日	発表者
Have the gender equality policies filled the gender gaps in the fields of science and technology in Japan?	Gender Summit 6, Asia-Pacific (Seoul, Republic of Korea)	2015. 8. 27	Miwa Yokoyama, Ginko Kawano, Mariko Ogawa, Hisako Ohtsubo, Kae Takarabe
Dual-Hire Systems: Associated with Career Development	Kyushu University Symposium for Diversity Initiatives and Gendered Innovations (Fukuoka)	2016. 3. 18	Hisako Ohtsubo
Beyond the Bias and Barriers 女性リーダー育成と基盤整備 一次の段階の支援に向けて	平成 27 年度 愛媛大学シンポジウム「大学における女性教員登用について」～ポジティブアクションを考える～（松山）	2016. 2. 22	大坪久子
トビタテ・CHIKUJO！世界はひろい	CHIKUJO から世界へ～女性グローバルリーダーの育成～キャリアパスセミナー（福岡）	2016. 2. 17	大坪久子
ダイバーシティ時代の女性～新しい風をおこすために～	大阪市立大学 平成 27 年度「女性研究者研究活動支援事業 総括シンポジウム（大阪）	2015. 12. 9	大坪久子
日本の理工系女性研究者支援を牽引した先導的活動	東北大学第 1 2 回男女共同参画シンポジウム・澤柳記念賞受賞講演（仙台）	2015. 11. 21	大坪久子
理系分野における男女共同参画・女性研究者支援について	明治大学平成 2 7 年度文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」シンポジウム（駿河台）	2015. 11. 6	大坪久子

発表課題名	学会名（開催地）	発表日	発表者
どうなる？ 第5期科学技術基本計画の中の女性研究者支援	日本遺伝学会第87回大会「男女共同参画公開ランチョンワークショップ『使えるものは全て使え！～東北大学から学ぶこと、学会が出来ること～』（仙台）	2015. 9. 24	大坪久子
海図のない航海で見たものー日本とアメリカ、バイアスとバリア、そしてその先へー	名古屋大学女性トップリーダー育成企画オフサイトミーティング 2015-リーダーへの道を考える- (愛知)	2015. 9. 9	大坪久子
ジメチルチオヒ素化合物から代謝生成するジメチル亜ヒ素と硫化水素の細胞毒性への影響	日本薬学会第136年会（横浜）	2016. 3. 29	下田康代, 黒澤英俊, 加藤孝一, 立川真理子, 畑 明寿, 圓藤陽子, 圓藤吟史, 山中健三
ジメチルヒ素化合物の毒性発現に対する cytochrome P450 の影響	第21回ヒ素シンポジウム（徳島）	2015. 11. 15	下田康代, 加藤孝一, 黒澤英俊, 畑明寿, 圓藤陽子, 圓藤吟史, 山中健三
無機ヒ素曝露の生物学的モニタリング指標値の検討	第21回ヒ素シンポジウム（徳島）	2015. 11. 14	畑 明寿, 黒澤英俊, Mohamed Ahsan Habib, 圓藤陽子, 山中健三, 藤谷 登, 圓藤吟史
Improving the efficiency of organoarsenic extraction from seaweeds	International Society for Trace Element Research in Humans (dubrovnik, Croatia)	2015. 10. 20	Akihisa Hata, Momoko Hasegawa, Hidetoshi Kurosawa, Kenzo Yamanaka, Yuko Yamano, Yoko Endo, Noboru Fujitani, Ginji Endo
肝 Cytochrome P450 (CYP) によるジメチルヒ素の毒性軽減	第59回日本薬学会関東支部会（船橋）	2015. 9. 12	下田康代, 黒澤英俊, 加藤孝一, 山中健三



発表課題名	学会名（開催地）	発表日	発表者
インフルエンザウイルスの細胞への付着は何粒子か	桂記念シンポジウム（東京）	2016. 3. 4	本田文江
The new technologies for virus research open new finding of both and cell	新潟大学セミナー（新潟）	2016. 1. 25	Ayae Honda
製剤の物理化学的特性に着目した化粧品有効成分の皮膚移行制御	日本化粧品技術者会 IFSCC 2015 チューリッヒ中間大会・国内報告会（東京）	2015. 11. 27	坂田修，藤井まき子，成 英次，中出正人，亀山浩一
A versatile approach to skin delivery of active cosmetic ingredients by controlling physicochemical properties of vehicle	IFSCC Conference 2015 (Zurich)	2015. 9. 22	Osamu Sakata, Makiko Fujii, Eiji Naru, Masato Nakade, Koichi Kameyama
難皮膚移行性の油溶性化粧品有効成分の皮膚移行性に製剤中の油剤が与える影響	第 40 回 日本化粧品学会（東京）	2015. 6. 18	坂田修，藤井まき子，小泉直也，中出正人，亀山浩一，渡辺善照
病院の医療情報データを用いたスタチンの使用と糖尿病の関連についての検討	第 18 回日本医薬品情報学会総会・学術大会（岡山）	2015. 6. 28	田中正太郎，大場延浩，安川優，鈴木友里，齋藤隼，吉野成泰，日高慎二，林宏行，関利一，福岡憲泰
医薬品情報提供文書の実態に関する研究	日本薬学会第 136 年会（横浜）	2016. 3. 27	西野潤一，齋藤佳恵，荒川基記，大場延浩，福岡憲泰，日高慎二
口腔内崩壊錠の添加剤の配合と安定性について	日本薬学会第 136 年会（横浜）	2016. 3. 27	太田美鈴，小柳亜優，大西耕太郎，荒川基記，三枝良安，鈴木直人，鈴木豊史，伴野和夫，日高慎二